



3月の園だより

令和6年3月1日

目黒区立田道保育園長

先月は雪が降りました。登園してくる子どもたちの目は輝いていて、「雪だるまをつくるんだ」「雪合戦しよう」と友達同士で声を掛け合っていました。園庭に出ると幼児クラスの子どもたちは大はしゃぎ、寒さを忘れて雪まみれになって遊んでいました。2歳児クラスは保育士が積もった雪を洗面器に入れて子どもたちの前に置くと、目を丸くしていましたが「触ってごらん」と声をかけられると手を伸ばして触り始めます。雪の感触が冷たくて気持ちが良いようで、何度も触っていました。東京ではなかなか雪が降ることはないので、子どもたちが貴重な経験ができたことを私も嬉しく感じました。

年長児クラスからは卒園式で歌う歌が元気に聞こえてきます。今月は卒園式があります。子どもたちの成長や友達との楽しい園生活の思い出を振り返り、保護者の方と一緒に祝いしたいと思います。私たち職員も、くじら組の旅立ちに大きな拍手とエールを送りたいと思います。

今年度も、あと1か月となりました。子どもたち大きく成長することができたのも保護者の方のご理解とご協力のおかげです。一年間大変ありがとうございました。残りの1か月も子どもたちと一緒に楽しく過ごしていきたいと思います。

今月の予定

ひなまつり	中旬
卒園式	避難訓練 身体計測
おわかれ会	



<一年間の成長した子どもたちの様子>



「ほいくえんのひみつ」

5歳児クラス

大好きな「かっぱおやじ」の絵本をきっかけに、地下の倉庫の扉から物音を聞いた子どもたちは「何かいるの」「かっぱおやじ・・・」と想像の世界が広がりました。ある日かっぱおやじから手紙がきて読んでみると「副園長先生が連れていかれた」大騒ぎし、副園長先生を返して貰おうとかっぱおやじに手紙を書きました。かっぱおやじから返事がくると「先生！返事がきた」「副園長先生、元気だった」とワクワクしながら友達同士、頭をつけて手紙を読んでいた。運動会の手紙には「かんばるんだぞ」と励まされ、運動会後に描いた経験画にはかっぱおやじが描かれていました。芋ほり遠足では木陰の木に足跡があるのを見つけると「かっぱおやじが来ている」とかっぱおやじがどんどん膨らんでいきます。「園長先生がかっぱおやじじゃないのか」想像の世界と現実の世界を行ったりきたり期待したり、驚いたり、ちょっぴり怖かったり、時にはユーモアにファタソジーの世界を楽しんでいました。ある友達がかっぱおやじの存在にとっても怖がる場面がありました。そんな姿を見て「大丈夫」と声をかけ、「やさしくしてね」と手紙を書いたり、どうしたらかっぱおやじに会えるのか友達同士で相談してイメージを膨らませたりしていました。見えないかっぱおやじの存在を通じて、子どもたちの中には様々な好奇心が湧いてきたように感じます。くじら組22名+見えない仲間の存在をいつまでも忘れずに小学校に行っても好奇心を膨らませてワクワクするような経験を沢山してほしいです。



「たくさんのはじめてから」 0歳児クラス

この1年たくさんのはじめてがありました。「寝返りをしたよ」「這い這いしたね」「あんよできたよ」と今では自由に自分の行きたいところへいけるようになりました。安心できる大人との関わりの中で、自分の思いを身振り手振りで必死に伝えようともしていません。また、友達にも興味が出てきて、一緒にトンネルに入ると、目を合わせて「ふいふい」と笑い合って喜んだり、猫を見かけては「ニャー」と皆で声を出して嬉しそうに真似して遊んでいます。少しずつ自分から周りへと世界も広がってきました。様々な経験を通じて身も心も大きくなっためだか組です。



「友達と一緒に」 1歳児クラス

ある日の朝、登園し友達とお父さんを見つけ「Bちゃん」と受け入れ口に駆け寄ると、「おはよう」とあいさつし合い、2人で手を振って「行ってらっしゃーい」とお父さんを見送りました。そのあと「何してたの」「ご飯作っていたよ」とやりとりをして、一緒にご飯作りを始めました。園庭では、大きな築山に果敢に登って行く友達を見て「〇〇ちゃんも」と挑戦していました。果敢に登りお互いに目が合うとにっこりと笑い合っています。自分だけの世界から友達との関わりが生まれ、友達の存在がうれしい子どもたちです。“友達と一緒に”を楽しみながら、できることが増え心も体も大きくなりました。



「はっけよーい のこった」

2歳児クラス

子どもたちすももの絵本が大好きです。フェルトを丸くして土俵に見立て、くまの人形力士の取り組みが始まります。「ひがしー〇〇の山」「にしー△△の里」など好きな名前を付け、行司役が「はっけよーいのこった」と声をかけると人形力士がぶつかり合います。宙に浮いたり押し合いをしたり、倒れてもまた起き上がったたりする自由なすもんです。「倒れたから負けだよ」「土俵出たらだめなの」と互いの言い分も伝え、保育士が見守りながら「じゃあどうしようか」と、聞くと「もう1回やる」と嬉しそうな表情で再び、取り組みが始まります。廊下や園庭でも、保育士や友達と本当のすもをとったり、小さな人形でトントンすもを楽しむ姿が見られます。この一年間、友達同士のやりとりも広がり、遊びが豊かになりました。



「友達とのかかわり」 3歳児クラス

友達と一緒に好きな遊びを楽しむことが大好きなペンギん組です。「これやってみたい」「どうやったらできるんだろう」という子どもたちの思いを受け止め大切にしてきました。園庭に行くと、友達と一緒に走りながら「シャベル持ってくるからバケツ持ってきて」などと子どもたち同士でやりとりをして、必要な道具をそろえてから虫探しやチョコレート屋さんなど、イメージを合わせて遊ぶ姿が多く見られるようになりました。先月のすも月間では、これまで保育士と子どもたちで取り組みをしていたのですが、ルールや約束事を話し、友達と取り組みをしてみました。相手をにらみつけるようにして取り組み、まわしも持つて力を出しています。一步でも前に進もうとふんばり、がんばる姿が見られました。“やってみよう”“がんばろう”と思う気持ちが自信へとつながり、友達と一緒に大きく成長した一年となりました。



「友達っていいな」 4歳児クラス

一年間子どもも大人も“やってみたい”という気持ちを大切に、たくさん遊びの中で実現してきました。最初は初めてのことに緊張したり“できるのかな”という気持ちもありましたが、好きな遊びを通して、友達の姿を認めたり、一緒にやってみようと挑戦する姿もたくさん見られるようになりました。ある日、積木で町を作り、ブロックで作った電車を走らせていると、「こんなのどうかな」と折紙をしていた友達が椅子を作って持ってきてくれました。「それいいね」「作り方おしえて」と、町が大きく広がっていきました。時には自分の思いと友達の思いが合わない時もありましたが、互いの思いを出し合い、そこから“じゃこうやってみる”“それもいい考えだね”など一緒に考えようとする姿も増え、成長を感じます。友達と一緒に過ごす中で、“楽しい”“くやしい”“おもしろい”“やってみよう”など様々なことを感じ心身ともに成長したいるか組です。